

				事業所における自己評価結果（公表）	
公表：2023年3月8日				事業所名：	障害児保育園ヘレン荻窪
環境・体制整備	1. 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点 座位保持椅子や箱いす等、置き場所を都度スタッフ間で話し合い工夫しなるべく活動スペースを広くとれるようにしている。 思い切り体を動かしたいときに、定員に対して狭すぎると感じる。活動を分けるなどして人数を少なくして体を動かせるようにしているが、場を分ける分、スタッフの人数が必要になってしまう。 保育室、子ども用トイレ等全体的に狭い 重心外クラスの人数と保育室の使い方が難しい。定員10名は現実的でない。	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 スペースの制限がある中、みんなで譲り合ったり使い方を工夫したりしています。設備は変えられないので、今後も使い方のアイデアを出し合ってまいります。
	2. 職員の配置数は適切であるか		○	他園からヘルプスタッフに来ていただいている。登園児数が少ない時に交代でなるべく作業を進めるように意識している。 個別の対応が必要な子どもが多い中、職員が少なく、できる活動が制限されたり、スタッフが休みにくい空気があったりする。常勤スタッフにかかる業務量が多くなっているように感じる。	常勤・非常勤スタッフみんなで協力し、保育と医療的ケアに当たっております。安全安心な毎日を過ごせるよう、職種を超えたチームで体制を整えてまいります。
	3. 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		○	立てない子どもにとって水道がやや使いにくい。箱いす等で工夫している。 視覚教材の活用や、場の整理等心がけている。 トイレが狭い。マット使用児が多い中、使いづらさがある。立ち便器の使用を経験させたい児もいるが、他児のトイレ使用との兼ね合いから実施は難しい。	見る（カードや手話）、聞く（音楽や言葉）、による情報の伝え方を場面によって使い分け、子どもたちへ伝えていきます。
	4. 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか		○	清掃や消毒等はこまめに行うようにしている。活動によって、子どもが集中しやすいようパーテーションを活用するなど、工夫を心掛けている。	
	5. 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか		○	PDCAサイクルを参画できるような業務的余裕があまり作れていない。	PDCAサイクルの大切さを年度当初の研修で学び、日々のふりかえりを取り入れています。活動に参加したスタッフの意見を反映できるよう、さらに工夫を重ねてまいります。
業務改善	6. 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○	今年度入社のため保護者向け評価表について、現在把握できていなかった。	保護者さまに事業所評価をお願いしております。ご指摘やご評価いただいたことを受け止め、よりよい経営を目指してまいります。
	7. 事業所向け自己評価表及び保証者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		○		
	8. 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	わからない	第三者による外部評価は行っておりません。保護者および職員向けの評価表をもとに事業所ごとに業務改善を行っております
	9. 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○		
	10. アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか		○	支援計画の目標設定と日々の支援に一貫性を持たせていく	6ヶ月ごとにアセスメントを実施しています。保護者の願いやお子さまの成長発達に合わせた支援計画を作成する心がけております。

	11. 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		アセスメントチェックリストの使用を試みる。	決められたツールは使用してきませんでした。今年度、一定のチェックリストを参考にしています。状況をみながら取り入れることを検討します。
適切な支援の提供	12. 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			児童発達支援のガイドラインに添って支援計画を作成しております。今後も一人ひとりの成長発達をアセスメント・モニタリングして、適切な支援計画を作成してまいります。
	13. 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		日々の支援を計画に紐付けて深めていく	個々の支援計画に沿った支援をより心がけてまいります。
	14. 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		日々の活動を考えるにあたって、保育まかせにするのではなく看護も加わりもっと密に保育と話せるようにしていきたい。 活動案完成がギリギリになり共有や各スタッフへの落とし込みが不十分にならないようにする	活動全体の計画案や日案を担当者が事前に提示し、グループから意見を出し合っってより良い活動になるよう、余裕を持った計画作成を心がけてまいります。
	15. 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		活動案に展開やステップアップを持たせて継続的に取り組んでいく。	
	16. 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			ヘレンは集団での育ちを大切にしているため活動は集団で行います。但し、その中においても、また自由遊びや生活のあらゆる場面においても、個別に立てた目標を大切にしております。
	17. 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		活動案を提示している。 不十分なこともある。	保育スタッフは活動案、日案をもってスタッフ間の事前の認識合わせをしております。明確なねらいを集団全体と個々の子どもたちに設定し、活動は起承転結の流れを大切にしながら楽しめるプログラムを工夫しております。
	18. 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		活動に参加した者だけの反省会になっているので、記録に残せるとより良いと思う。 子どもや保育に関わる時間を優先すると振り返りの時間が取れないこともある。職員間のごまめなコミュニケーションが必要。	実施した日々の活動や行事について、ふりかえりまでをセットにした計画をイメージして取り組むように努力しております。PDCAサイクルをし、より良い保育を提供できるよう、さらに工夫と努力をしております。
	19. 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	20. 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			6ヶ月ごとにモニタリングをし、個別支援計画へつなげております。
	関係機関や保護者との連携	21. 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		
22. 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか		○			各地域保健センターの保健師さんと必要に応じて情報交換をしております。
23. (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか		○			医療関係・障害者施策課・保育課・各地域保健センター・永福学園小学部・精美特別支援学校・東京都教育委員会・杉並区教育委員会等と連携し、常の支援と就学への支援に取り組んでおります。
24. (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか		○			
25. 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○			
26. 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○			

心 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27. 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		杉並区児童発達支援センター主催の研修に複数のスタッフが参加し学んでおります。センターと児童発達支援事業所間で看護師の情報交換の会合も続けております。
	28. 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○	少しずつ始められている。 コロナ禍であり全員ではないが、可能な限り行っている 特定の子どものみしか行われていない 一部の児に限定して交流している。 公園や区の施設などでのふれあいはあいさつ程度	コロナ禍以前に計画されていた地域保育園との交流事業が徐々に再開されております。現在は部分的な交流ですが、コロナがより落ち着きました時点で目指す地域交流を進めてまいりたいと存じます。
	29. (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○	わからない	杉並区の医療的ケア児支援検討部会へ園長が参加しております。地域と連携してご家庭と子どもたちの福祉増進を図っております。
	30. 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	小さなことでもこまめに情報共有する。話しやすい関係性を作る。	
	31. 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	○		ペアレント・トレーニングの研修を受講したスタッフはおります。今後は保護者へ説明したり活用したり、できる範囲で情報提供をしてまいります。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	32. 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		
	33. 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		
	34. 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		ヘレンは児童発達支援事業所ではありませんが、そもそも保育園として保護者に寄り添いながら子育て支援を丁寧に進めてまいります。
	35. 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	遠足や保育参観を1クラスだけ行うことができました。コロナ感染もあり、中止になってしまった企画もあったのでオンラインで繋がれたりする工夫があってもよかったです。 コロナ禍で充分に行えていない コロナ感染防止対策を講じながら少しずつ再開している 十分に行われているとはいいがたい 企画したが状況により保護者会をやり切ることができなかった。	保護者みなさま同士の活動をなかなか設定できずしております。リアルでの保護者会はうみ組のみ開催できましたが、そら組は諸事情により実施できずじまいでした。次年度は保護者の交流や情報交換の場をリアル・オンラインで実施できるよう、計画を進めます。
	36. 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	相談・申し入れを園長、クラス間で早めに共有し、対応が後手に回らないように、疎かにならないようにしていく。	
	37. 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		
	38. 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		
	39. 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		
	40. 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		園へご招待する行事は実施できていません。こちらから地域のお祭の見学へ行かせていただいたり、地域の方々がヘレンの花壇の手入れをしてくださったりと、大変お世話になっております。
	41. 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		
	42. 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		

非常時等の対応	43. 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			
	44. 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			
	45. ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			
	46. 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			
	47. どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		組織的な対応がようやく動き出した拘束の定義を整えてあやふやさのないようにする。必要に応じて正しく保護者に伝えていく	ヘレン全体で身体拘束についてのマニュアル作成を進めています。これまで個別支援計画への記載してありました場面以外の部分も丁寧に説明と記録をしていくように致します。